

県社協のひろば

九百九十七人・百二十四団体の功績を讃え

―第51回神奈川県社会福祉大会を開催―

去る十月二十四日、第五十一回神奈川県社会福祉大会を、県内社会福祉関係者約千名の参加のもと、県立音楽堂（横浜市西区）において開催しました。

第一部の記念講演では、女優の石井めぐみさんに「やさしい街 やさしい人」をテーマにご講演いただきました。石井さんは、重度障害を持って生まれた長男優斗君との生活を通して、生命の大切さを実感された経験について述べられ、「生命の尊さが軽んじられがちな時代にこそ、それを言葉にし、広く伝えていくことにより、誰もが住みやすいやさしい街にしてください」と結ばれました。

第二部の式典では、多くの来賓にご臨席いただく中、岡崎洋県知事、阿部絢子本会会長、牧内良平県共同募金会会長より各顕彰の授与が行われました。受賞者の内訳は、神奈川県介護賞（十人）、社会福祉関係者知事表彰（五十八



受賞者から表彰状を受け取るボランティア阿部本会会長

人、十二団体）、ホームヘルパー知事表彰（三人）、共同募金運動功労者県知事表彰（四十二人、八団体）、県社協会長表彰（四百六十一人、八十五団体）、県社協会長感謝（二百四十二人）、県共同募金会会長感謝（個人百六十二人、団体十九団体、委嘱職員十九人）でした。受賞者代表としてあいさつされた里親の成沢康江さん（相模原市）は、子どもたちとの思い出に触れ、「巣立っていった子どもたちの幸せを願っています」と語られました。（総務課）

活動の「いま」と「将来」を語り合う

―オンブズパーソン研究・交流集会を開催―

契約制度への移行により、これまで以上に福祉サービスの質が問われる中、高齢者や障害者等の方々の声に耳を傾け、その声を代弁し、権利を擁護していくオンブズパーソンは、地域に欠くことのできない存在となってきました。現在、県内には十を超えるオンブズパーソンの活動（以下、活動）に百人以上の方々が参加しており、全国的にも先進的な取り組みを見せています。しかし、活動の広がりとともに様々な課題も生まれています。

そこで、オンブズパーソンの質の確保、向上を目指し、横断的組織の設立をすすめている「かながわ福祉オンブズパーソン協議会準備委員会」が中心となり、本会「あしすと」も参画し、十月十九日、県社会福祉会館（横浜市神奈川区）で「かながわ福祉オンブズパーソン研究・交流集会」を開催しました。冒頭の基調講演の後、シンポジウムでは、身体・知的障害者福祉施設や老人福祉施設利

用者、保護者の方々などを招き、それぞれの思いや、オンブズパーソンへの期待等の発題がありました。施設利用者からは「髪を染めたい」「音楽を一人で聴きたい」など、ごく当たり前の希望が聞かれ、権利擁護の高揚の中にあっても、遅々としている現状を感じさせられました。また、保護者からは「オンブズパーソンの存在や役割が具体的に分からない。相談時だけではなく、日頃から気軽に話せる関係を作って欲しい」と、今後の活動に期待する声がありました。



7つのグループに分かれて行われた分散会では、参加者それぞれが思いを語り交流を深めた

オンブズパーソンからは、自分の仕事と活動との両立の難しさや相談者に対する理解のあり方等、資質向上に向けた取り組み課題や団体内での自己完結による閉塞化、運営資金面のこと等、様々な問題が提起されました。そして、団体相互に共有しながら解決していくことが必要という認識のもと、今後「かながわ福祉オンブズパーソン協議会」の設立に向け、協働していくことが確認されました。

権利擁護の難しさを改めて痛感した今回の集会ですが、同時に関係者が一丸となり、地道な活動を積み重ねていくことが、真の権利擁護に繋がっていくと感じさせられました。（あしすと）